

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈中・23〉	いわき市立	小名浜第二	中学校
〈実施日〉	平成 27年 8月 28日(金)～			
〈実践教科等〉	※当てはまる番号に○を付けてください。4は()に教科等を入れてください。 ① 理科 ② 学級活動 3 総合的な学習の時間 4 その他()			
〈実践内容〉	本実践は、昨年度特別支援学級で行った、放射線教育である			
1 放射線学習スキルの活用	エネルギー教育全国協議会発行の「放射線学習スキル」を活用し、放射線の基礎を学んだ。			
				
2 応答特性測定(はかるくんでの測定)				
① 測定用試料(塩、湯ノ花、カリ肥料、マントル、御影石(花崗岩))				
② 小名浜第二中学校(教室、校庭、体育館、プールなど)				
3 発展課題	水力、火力、原子力発電の他に、現在注目されている再生可能エネルギーの一つに、洋上風力発電がある。小名浜二中から建設中の発電機が見えていたこともあり、親しみやすい発電方法であった。東京ビックサイトで行われたエコプロダクツ展で、戸田建設さんが展示していた浮体式風車模型を譲って頂き、授業に取り入れた。			
				
〈成果〉	1 放射線学習スキルのテキストは、小学校高学年・中学生対象で、ルビもふってあり、問題を解きながら楽しくすすめることができる。ヒントもあり、難しいところは答えをなぞり書きするシステムで、無理なく学習を進めることができる。 2 実際に線量を測定することで、放射線は、身のまわりのどこにでもあることを実感できたようだ。また、放射線は、いろいろな分野で利用されていることも学ぶことができた。配付されたDVD「活躍する放射線！」も真剣に視聴していた。 3 特別支援学級の生徒にとっては、風車模型を作ったことが、とても楽しかったようである。バランス用のビー玉もきれいで、気に入ったようだ。コスト削減のために浮かしているという知識が定着したかは疑問であるが、羽がまわってとてもうれしそうであった。			
〈課題〉	1 はかるくんは、以前大阪科学技術センターで無料で貸し出していた。しかし、現在は必要と申し出た市町村に配付され、貸し借りが不便になった。今回は、知人の協力を得て、測定の機会を得た。放射線測定器の入手が、簡易にできないことが課題である。 2 放射線についての授業を行い、正しく怖がり、冷静な意思決定ができる日本人を育てていくことが大切だと考える。			
資料作成担当者職(教諭)	氏名(木村 智子)	学校電話番号	(54-7455)	

【資料作成上の注意】

- 平成27年8月～平成28年7月の実践についてまとめてください。
- 提出期限の平成28年8月1日(月)までに電子メールで送信してください。
(送信先: kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp)